

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】令和2年5月21日(2020.5.21)

【公表番号】特表2020-502598(P2020-502598A)
 【公表日】令和2年1月23日(2020.1.23)
 【年通号数】公開・登録公報2020-003
 【出願番号】特願2018-560950(P2018-560950)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 9/445 (2018.01)

【F I】

G 0 6 F 9/445 1 3 0

G 0 6 F 9/445 1 2 0

【誤訳訂正書】

【提出日】令和2年4月7日(2020.4.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現する方法であって、
 少なくとも1つのアセンブリーを1つのフレームワークシステムに配置するステップS1と

、
 メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに、アセンブリーを配置している
 フレームワークシステムを表示するステップS2と、

ユーザがメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセン
 ブリーをクリックすることで、メイン業務システムから遷移して、クリックされた前記ア
 センブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインす
 るステップS3と、を備え、

ステップS3は、

フレームワークシステムへ前記アセンブリーに定義された別の業務システムにログイン
 する業務ログイン要求を発するように、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブペ
 ージに表示されているアセンブリーをクリックするステップS31と、

フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報とクリックされたアセンブリ
 ーの情報とを配置するステップS32と、

フレームワークシステムによって提供されたフレームワークシステムファイルumaplite
 .jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsをHTTPプロトコルによってメイン業務
 システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードするステップS33と、

メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ
 、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とクリックされたアセンブリ
 ーに必要なパラメータとを伝送するステップS34と、

フレームワークシステムが、業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合
 格した場合、フレームワークシステムに配置されている前記クリックされたアセンブリー
 ー情報をフィードバックし、かつ、ステップS36を実行するステップS35と、

フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されているアセンブリ
 ーを初期化するステップS36と、

フレームワークシステムが、クリックされたアセンブリーにjsonpを介してログインフ

リー認証を要求し、認証に合格した場合、ステップS38を実行するステップS37と、メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術で、クリックされたアセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインすることを實現するステップS38と、を備えることを特徴とする業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法であって、

ステップS1に記載のアセンブリーは、カプセル化された後の、メイン業務システム以外の他の業務システムであり、カプセル化された後の他の業務システムはアイコンとして表示されることを特徴とする業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法であって、

前記他の業務システムは、インターネット電話ツールと、ウェブ雑談ツールとを含むことを特徴とする業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法であって、

ステップS2に記載のアセンブリーを配置しているフレームワークシステムは、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにおいてフローティングツールバーのように表示され、或いはメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにおいてメイン業務システムのメニューバーに埋め込むように表示されることを特徴とする業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現する方法。

【請求項 5】

メモリーとプロセッサとを備える電子装置であって、

前記メモリーに、前記プロセッサによって実行可能であって業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現するシステムが格納されており、

前記業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを實現するシステムは、

アセンブリーを定義してコンビネーションし、かつ、アセンブリーを管理するためのコンビネーションモジュールと、

コンビネーションした後のアセンブリーをメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示するためのフロントエンド・ディスプレイモジュールと、

メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーがクリックされたことを検出すると、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページを開いてログインするための検出アクセスモジュールと、を備えることを特徴とする電子装置。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の電子装置であって、

前記アセンブリーは、カプセル化された後の、メイン業務システム以外の他の業務システムであり、かつ、アイコンとして表示され、

前記コンビネーションモジュールは、アセンブリーを表示するアイコンを特定の位置までにドラッグするようにアセンブリーの定義コンビネーションを實現することを特徴とする電子装置。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の電子装置であって、

前記アセンブリーが定義コンビネーションされた後、フローティングツールバーまたはメイン業務システムのメニューバーに埋め込むようにメイン業務システムのフロントエン

ド・ウェブページに表示することを特徴とする電子装置。

【請求項 8】

請求項 5 乃至 7 の何れか 1 項に記載の電子装置であって、
前記他の業務システムはインターネット電話ツールとウェブ雑談ツールとを含むことを特徴とする電子装置。

【請求項 9】

業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現するシステムを格納するコンピュータ読取可能な記憶媒体であって、
少なくとも1つのアセンブリーを1つのフレームワークシステムに配置するステップS1と、

メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに、アセンブリーを配置しているフレームワークシステムを表示するステップS2と、

ユーザがメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーをクリックすることで、メイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインするステップS3と、を少なくとも1つのプロセッサに実行させるように、前記業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現するシステムは、前記少なくとも1つのプロセッサによって実行され、

ステップS3は、

フレームワークシステムへ前記アセンブリーに定義された別の業務システムにログインする業務ログイン要求を發するように、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーをクリックするステップS31と、

フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報とクリックされたアセンブリーの情報とを配置するステップS32と、

フレームワークシステムによって提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードするステップS33と、

メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とクリックされたアセンブリーに必要なパラメーターとを伝送するステップS34と、

フレームワークシステムが、業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステムに配置されている前記クリックされたアセンブリー情報をフィードバックし、かつ、ステップS36を実行するステップS35と、

フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されているアセンブリーを初期化するステップS36と、

フレームワークシステムが、クリックされたアセンブリーにjsonpを介してログインフリー認証を要求し、認証に合格した場合、ステップS38を実行するステップS37と、

メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術で、クリックされたアセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインすることを實現するステップS38と、を備えることを特徴とするコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項 10】

請求項 9 に記載のコンピュータ読取可能な記憶媒体であって、

ステップS1に記載のアセンブリーは、カプセル化された後の、メイン業務システム以外の他の業務システムであり、カプセル化された後の他の業務システムはアイコンとして表示されることを特徴とするコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項 11】

請求項 10 に記載のコンピュータ読取可能な記憶媒体であって、

前記他の業務システムはインターネット電話ツールとウェブ雑談ツールとを含むことを特徴とするコンピュータ読取可能な記憶媒体。

【請求項 1 2】

請求項 9 に記載のコンピューター読取可能な記憶媒体であって、

ステップ S2 に記載のアセンブリーを配置しているフレームワークシステムは、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにおいて、フローティングツールバーのように表示され、或いは、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにおいて、メイン業務システムのメニューバーに埋め込むように表示されることを特徴とするコンピューター読取可能な記憶媒体。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

メモリーとプロセッサとを備える電子装置であって、前記メモリーに前記プロセッサによって実行されて業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現するシステムが格納されており、

前記業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現するシステムは、

アセンブリーを定義してコンビネーションし、かつ、アセンブリーを管理するためのコンビネーションモジュールと、

コンビネーションした後のアセンブリーをメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示するためのフロントエンド・ディスプレイモジュールと、

メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーがクリックされたことを検出すると、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページを開いてログインするための検出アクセスモジュールと、を備える。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

配置前、先にこれらの汎用ツール及び業務システムをアセンブリーにカプセル化する必要があり、カプセル化後に形成されているアセンブリーは、アイコンとして表示され、例えばインターネット電話ツールは、電話パターンのアイコンとして表示される。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

上記実施形態を元に、別の実施形態では、ユーザがメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーをクリックすることで、メイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインするステップを実現するとき、前記業務システムとマルチアセンブリーとのやりとりを実現するシステム 20 は、少なくとも 1 つのプロセッサ 22 によって実行されており、具体的に、

フレームワークシステムへ前記アセンブリーに定義された別の業務システムにログインする業務ログイン要求を発するように、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーをクリックする第一ステップと、

フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報とクリックされたアセンブリ

ーの情報とを配置する第二ステップと、

フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードする第三ステップと、

メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とクリックされたアセンブリーに必要なパラメーターとを伝送する第四ステップと、

フレームワークシステムは業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステムに配置されている前記クリックされたアセンブリー情報をフィードバックし、かつ、フレームワークシステムが前記フレームワークシステムに配置されているアセンブリーを初期化する第五ステップと、

フレームワークシステムが、クリックされたアセンブリーにjsonpを介してログインフリー認証を要求し、認証に合格した場合、メイン業務システムが統合クロスドメイン技術で、クリックされたアセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインする第六ステップと、を実現する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

(一)メイン業務システムからインターネット電話ツールにログインするプロセスは、下記の通りであり、即ち、

1、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているフローティングツールバーにおけるインターネット電話のアイコンをクリックし、フレームワークシステムへ前記インターネット電話にログインする業務ログイン要求を発することと、

2、フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報と前記インターネット電話アセンブリーの情報とを配置することと、

3、フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsとをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードすることと、

4、メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とインターネット電話アセンブリーに必要なパラメーターとを伝送することと、

5、フレームワークシステムが業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステムに配置されている前記クリックされたアセンブリー情報をフィードバックすることと、

6、フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されているインターネット電話を含んでいる各アセンブリーを初期化することと、

7、フレームワークシステムがjsonpを介してインターネット電話のログインを要求することと、

8、メイン業務システムが統合クロスドメイン技術とインターネット電話アセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムからインターネット電話の窓口を直接開くこととである。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 6 】

(二)メイン業務システムから別の業務システムにログインするプロセスは、下記の通りであり、即ち、

1、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているフローティングツールバーにおける別の業務システムを表すアイコンをクリックし、フレームワークシステムへ前記別の業務システムにログインする業務ログイン要求を発することと、

2、フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報と前記別の業務システムのアセンブリーの情報を配置することと、

3、フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsとをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードすることと、

4、メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報と前記別の業務システムのアセンブリーに必要なパラメーターとを伝送することと、

5、フレームワークシステムが業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステム配置の前記別の業務システムのアセンブリー情報をフィードバックすることと、

6、フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されている前記別の業務システムを含んでいる各アセンブリー情報を初期化することと、

7、フレームワークシステムが前記別の業務システムにjsonpを介してログインフリー認証を要求し、認証に合格した場合、次のステップを実行し、そうでなければログイン失敗情報をフィードバックすることと、

8、メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術で、インターネット電話アセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインすることを実現することとである。

【 誤 訳 訂 正 7 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 3 8

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 3 8 】

しかも、特に異なる業務システムがメイン業務システムにクロスドメインアクセスされるとき、アセンブリーがアクセス権限が要るか否かに応じてログイン認証が要るか否かを判定し、例えばインターネット電話ツール類の汎用ツールの場合、ログイン認証は要らなく、別の業務システムにクロスドメインアクセスする場合、ログイン認証は必要となる。更に、非常に便利なログインフリー認証を利用することでオペレーターがアカウントナンバーとパスワードを繰り返し入力する手間を省くことができる。

【 誤 訳 訂 正 8 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 1

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 4 1 】

コンビネーションモジュール201は、アセンブリーを定義してコンビネーションし、かつ、アセンブリーを管理する。

【 誤 訳 訂 正 9 】

【 訂 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 8

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【 0 0 4 8 】

配置前、先にこれらの汎用ツール及び業務システムをアセンブリーにカプセル化する必要があり、カプセル化後に形成されているアセンブリーは、アイコンとして表示され、例えばインターネット電話ツールは、電話パターンのアイコンとして表示される。

【 誤訳訂正 1 0 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 5 】

本実施形態の前記方法は、使用前、アセンブリーに対して標準化カプセル化してからアイコンをドラッグすることでフレームワークシステムでのアセンブリーのコンビネーションを実現し、操作が簡単かつ便利であり、システム開発の作業負荷を大幅に低減する。また、アセンブリーをコンビネーションした後、フロントエンド・ウェブページの表示位置が活発で変化に富んでおり、かつ、後期使用中でオペレーターに表示位置を自ら特定させ、オペレーターの異なるニーズに応ずることができる。

【 誤訳訂正 1 1 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 6 】

上記実施形態を元に、別の実施形態では、図4に示すように、前記ステップ3は下記のサブステップを含んでおり、即ち、

フレームワークシステムへ前記アセンブリーに定義された別の業務システムにログインする業務ログイン要求を発するように、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているアセンブリーをクリックするステップS31と、

フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報とクリックされたアセンブリーの情報とを配置するステップS32と、

フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsとをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードするステップS33と、

メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とクリックされたアセンブリーに必要なパラメーターとを伝送するステップS34と、

フレームワークシステムが業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステムに配置されておいる前記クリックされたアセンブリー情報をフィードバックし、かつ、ステップS36を実行するステップS35と、

フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されているアセンブリーを初期化するステップS36と、

フレームワークシステムが、クリックされたアセンブリーにjsonpを介してログインフリー認証を要求し、認証に合格した場合、ステップS38を実行するステップであって、

具体的に、このステップにおけるログインフリー認証とは、フレームワークシステムはオペレーターが前記メイン業務システムにログインするときに用いられたアカウントナンバーやパスワードを直接取得して、クリックされたアセンブリーに定義された別の業務システムにログインするアカウントナンバーやパスワードとし、即ちオペレーターがメイン業務システムから遷移して別の業務システムにログインするとき、該オペレーターが再びアカウントナンバーやパスワードを入力することで検証する必要が無く、フレームワークシステムに自動的にコーリングされる、ことを指すステップS37と、

メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術でクリックされたアセンブリーとやり

とりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して、クリックされた前記アセンブリーに定義された別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインすることを実現するステップS38と、を備える。

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

(一) 図5に示すように、メイン業務システムからインターネット電話ツールにログインするプロセスは、下記の通りであり、即ち、

S31'、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているフローティングツールバーにおけるインターネット電話のアイコンをクリックし、フレームワークシステムへ前記インターネット電話にログインする業務ログイン要求を発することと、

S32'、フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報と前記インターネット電話アセンブリーの情報とを配置することと、

S33'、フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsとをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードすることと、

S34'、メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報とインターネット電話アセンブリーに必要なパラメーターとを伝送することと、

S35'、フレームワークシステムが業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステムに配置されている前記クリックされたアセンブリー情報をフィードバックすることと、

S36'、フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されてインターネット電話を含んでいる各アセンブリーを初期化することと、

S37'、フレームワークシステムがインターネット電話にjsonpを介して要求してログインすることと、

S38'、メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術でインターネット電話アセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムからインターネット電話の窓口を直接開くことを実現することとである。

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0060

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0060】

(二) 図6に示すように、メイン業務システムから別の業務システムにログインするプロセスは、下記の通りであり、即ち、

S31''、メイン業務システムのフロントエンド・ウェブページに表示されているフローティングツールバーにおける別の業務システムを表すアイコンをクリックし、フレームワークシステムへ前記別の業務システムにログインする業務ログイン要求を発することと、

S32''、フレームワークシステムが前記メイン業務システムの情報と前記別の業務システムのアセンブリーの情報とを配置することと、

S33''、フレームワークシステムに提供されたフレームワークシステムファイルumaplite.jsと統合クロスドメインファイルcross-domain.jsとをHTTPプロトコルによってメイン業務システムのフロントエンド・ウェブページにダウンロードすることと、

S34''、メイン業務システムがフレームワークシステムに対して標準的な初期化を行

ない、かつ、フレームワークシステムへメイン業務システムの認証情報と前記別の業務システムのアセンブリーに必要なパラメーターを伝送することと、

S35 ' '、フレームワークシステムは業務ログイン要求が権限のあるか否かを検証し、検証に合格した場合、フレームワークシステム配置の前記別の業務システムのアセンブリーの情報をフィードバックすることと、

S36 ' '、フレームワークシステムが、前記フレームワークシステムに配置されている前記別の業務システムを含んでいる各アセンブリーを初期化することと、

S37 ' '、フレームワークシステムが前記別の業務システムにjsonpを介してログインフリー認証を要求し、認証に合格した場合、次のステップを実行し、そうでなければ、ログイン失敗情報をフィードバックすることと、

S38 ' '、メイン業務システムが、統合クロスドメイン技術で、インターネット電話アセンブリーとやりとりし、ユーザがメイン業務システムから遷移して前記別の業務システムのフロントエンド・ウェブページにログインすることを実現することとである

本実施形態における前記やりとり方法は、メイン業務システムから他のアセンブリーにクロスドメインアクセスするコーリングステップを詳細に説明した。フレームワークシステムは、配置式管理とアセンブリーの初期化を利用して、アクセス基準を制定と審査することで各アセンブリーに基準に従いアクセスさせる。また、メイン業務システムが統合クロスドメイン技術で各アセンブリーとのやりとりを実現し、クロスドメインアクセスの対象とは、汎用ツール類のシステムであっても良いし、更にメイン業務システムと似通って別の業務システムであっても良く、適用範囲は広い。

【誤訳訂正 1 4】

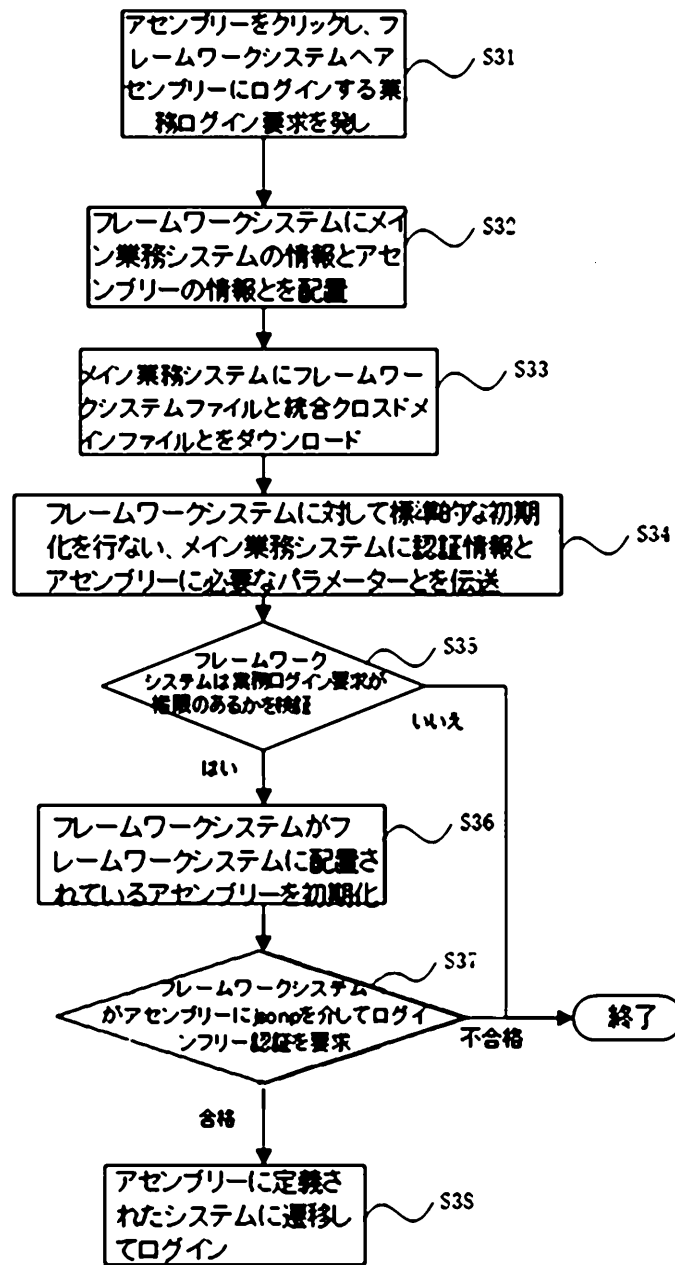
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 図 4 】



【 誤訳訂正 1 5 】

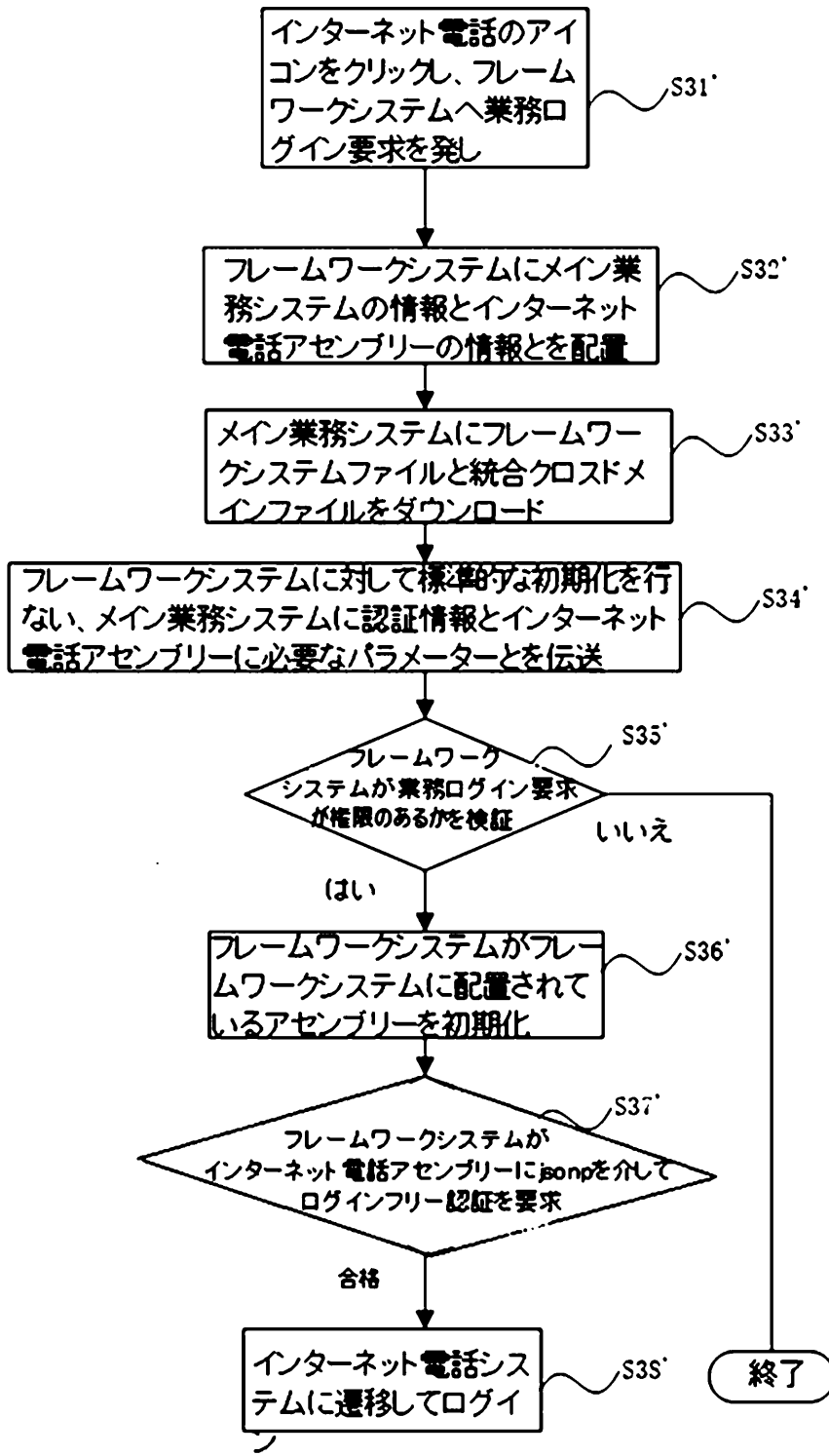
【 訂正対象書類名 】 図面

【 訂正対象項目名 】 図 5

【 訂正方法 】 変更

【 訂正の内容 】

【 図 5 】



【 誤 訳 訂 正 1 6 】
【 訂 正 対 象 書 類 名 】 図 面
【 訂 正 対 象 項 目 名 】 図 6
【 訂 正 方 法 】 変 更
【 訂 正 の 内 容 】

【図6】

